

# 令和4年度業務実績に関する評定及び委員意見一覧

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	2	24	1	0	27	96.3%	7.4%	

## 1 教育に関する目標を達成するための措置

### (1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1

イ 学士課程 No.1~4		4			4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 6
---------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	-------------

#### 【委員意見】

○伊勢委員 A

○伊藤委員 A

アドミッションポリシーに基づいた選抜試験の成果に期待したい。

○佐藤委員 A

○中沢委員 A

大学見学・出前講座や探究型学習の指導支援、アカデミック・インターンシップなどの事業が文部科学省より評価され、「大学入学者選抜における好事例」に選定された点は評価できる。

○中島委員 A

順調に進んでいる。

○吉沢委員 A

コロナ禍以降においても、授業等においてDX化が進んだと判断する。

## 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	【評価】
2 □ 大学院課程 No.5~6		1	1		2	50.0%	0.0%	C	C 6

**【委員意見】**

○伊勢委員 C

市町村および企業との連携は効果を出してきているので、そのつながりで伸ばせる余地はあるように感じる。

○伊藤委員 C

引き続きの努力をお願いしたい。

○佐藤委員 C

○中沢委員 C

看護学研究科では、大学院教育に関するアンケート調査やキャリアガイダンスでの広報活動を行い、事業構想学研究科では、研究科FDを実施して入学者の確保に向けた現状や他大学の動向等について検討を行い、食産業学研究科では学内者向け大学院進学説明会を開催するとともに食産業フォーラムを通じた広報・周知を行った。この結果、大学院の入学定員充足率は57.7%であり、前年度よりも低くなった。

○中島委員 C

定員充足率向上のために、入学者選抜制度の見直しや関連機関への呼びかけなどさまざまな努力は見られるものの、結果として充足率を満たせていない。

○吉沢委員 C

充足率が低いというのが評価を下げている。今後社会人入学者が増えてくることも考えられるが、学卒のストレートの入学モデルなど積極的に広報に活用してはどうかと考える。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3

イ 学士課程 No.7~9	1	2			3	100.0%	33.3%	A	【評価】 A A 6
---------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---	---------------

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A

DX対応として、看護学研究科ではシミュレータやe-learningシステムを用いたシナリオ・トレーニングの教育の場としてのスキルラボを整備し運用開始した。また、臨地実習と学内実習を相互に補完するデジタル教材を独自開発し試行評価した。事業構想学研究科では、奈良県立大学との協定に基づく「アントレプレナー基礎」、リカレント教育推進事業「Downstreamから学ぶDXリスクリング」に遠隔授業を活用し、他大学等との連携による教育プログラムを構築した。

- 中島委員 A

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを明確に定め、これに基づいた学位授与、教育課程の編成・実施を図るとともに、学修成果の把握に努めている。学群構想が活かされている。

- 吉沢委員 A

それぞれの学群が特徴のある教育に取り組んで成果を上げている。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

4

□ 大学院課程 No.10~12		3			3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 食産業学研究科における、さらなる機器の充実を図られたい。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 各研究科の学修成果測定方法を統一して研究科間での比較を可能にし、教育効果の検証を行った。新たな全学組織として情報戦略推進会議及び情報戦略推進室を設置し、IRでの基本的な指標の可視化と点検・評価に必要な指標の設定を行った。  
 ○中島委員 A  
 3ポリシーの見直しが行われた。修了時の学修成果の分析、並びに測定方式の統一などが行われた。  
 ○吉沢委員 A  
 看護学群において、どのような人材養成を担う役割なのかを明確にした方がいいのではないかと考える。研究者・教育者なのか、APN人材養成なのかなど。

5

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 教育研究組織 No.13		1			1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
----------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 経営及び教学に関する戦略的な意思決定の支援及び学内情報のデジタル化と可視化を推進することを目的とした「情報戦略推進会議」と「情報戦略推進室」を新たに設置した。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 教学IRの実質的活動に期待する。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

6

□ 教員・教員組織 No.14~16		3			3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
--------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 教員評価制度はどんなものか。また、課題や弊害は無いかな。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 教員評価制度検討委員会において制度の点検・見直しを行うとともに、教員年俸制に関する情報収集を行っている。また、教職員の育成及び自己研鑽のため、マクロ、ミドル、ミクロの各レベルでFD・SDを実施した。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 看護学群以外の学群における女性教員の割合、特に教授職、管理職における女性教員率のUPをお願いしたい。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

7

イ 学修・生活支援 No.17~19		3			3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
--------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 年2回の新生交流事業(コンボケーションデー)実施、必修科目の欠席2回など問題を抱えた学生の早期発見と支援、合理的配慮提供フローの短化、発達障害とその傾向のある学生への支援体制の整備を目的としたFDの開催などに積極的に取り組んでいる。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 きめ細やかな学生支援が出来ている。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

8

□ キャリア形成支援 No.20~21		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
---------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A

卒業生の就労状況調査による分析、地元企業就職やUターン支援のための宮城県中小企業家同友会との連携強化、公務員や国家資格試験対策として外部講師による講習会の開催、コロナ禍でも受入可能な企業へのインターンシップの積極的参加促進、上級生によるインターンシップ経験談等の動画教材制作など、キャリア形成支援に積極的に取り組んでいる。

- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

就職率からみて、素晴らしい。就職後のフォローがどこまでされているのか。離職率、転職率から考えていく必要がある。

**【特記事項に関する委員意見】**

- 伊勢委員

全体的にとてもきめ細かく学生をサポートしていると感じる。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

9

2 研究に関する目標を達成するための措置 No.22~24	1	2			3	100.0%	33.3%	A
-------------------------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】
A

S 2  
A 4

**【委員意見】**

- 伊勢委員 S  
外部資金獲得を評価できる。
- 伊藤委員 A  
研究成果発表件数、外部資金獲得総額共に目標数値に向け、順調に推移している。
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A  
「宮城大学研究・共創フォーラム」のハイフレックス開催、科研費獲得に関するオンライン勉強会やオンデマンド講演会の開催、8件の職務発明の認定、JST STARTやJST 共創の場等の大型の外部資金の獲得、「研究成果公開促進助成制度」の導入による論文投稿支援と研究支援人材の採用など積極的に展開されている。
- 中島委員 S  
(No.24)JSTの大型外部資金獲得を評価します。
- 吉沢委員 A  
研究・共創センター設置の成果が出てきており、素晴らしいと思う。一部の学群だけでなく、すべての学群が同様な取り組みができることを期待する。

**【特記事項に関する委員意見】**

- 中沢委員  
大型の外部資金が獲得できたことから、次年度以降は研究成果発表件数も増加することが期待できる。



# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

10

3 教育研究環境の整備に関する目標を達成するための措置 No.25~27		3			3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
--------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 令和4年度に予定していた実験機器の整備・更新、令和4年4月に宮城大学出版会を設立し同年10月に宮城大学研究ジャーナル2巻1号の発行、オンラインメディア(ポッドキャスト番組)の月1回配信などを着実にやり、令和4年度は外部資金獲得目標も達成している。  
 ○中島委員 A  
 大学出版会を設立した。  
 ○吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	1	5	0	0	6	100.0%	16.7%	
-----------------------------	---	---	---	---	---	--------	-------	--

11

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置 No.28~31	1	3			4	100.0%	25.0%	A
---------------------------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】	S 1
A	A 5

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 S  
 公開講座の人气が伺える。市町村や企業連携事業等の実績も評価できる。  
 ○伊藤委員 A  
 ・ 公開講座計画1,600人に対して9,490人  
 ・ 講師派遣計画300件に対して680件  
 いずれも素晴らしい実績、実学と地域貢献に合致している。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 数多くの地方自治体や機関と連携し、地域貢献の実績を上げている点は高く評価できる。公開講座等の開催をオンラインで行うことの利便性がもはや浸透してしまった感があり、将来的にはほぼすべての組織体でIT及びAI人材が不足すると予想される。  
 ○中島委員 A  
 セミナーやパンフレットなど地域への情報発信が頻繁に行われている。自治体との連携が密である(S評定に上げようか迷いましたが一応現状維持)。  
 ○吉沢委員 A  
 宮城県における地域貢献は、地元の大学として、県の公立大学として大きい。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

12

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.32~33		2			2	100.0%	0.0%	A
----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 海外派遣学生数については、R8に200人、R4は28/62とのことで、年々増えていく想定か。強化策はあるか。  
 ○伊藤委員 A  
 令和8年度海外派遣枠200人は高い目標ですが、コロナ明けで一層の努力を期待する。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 国際交流協定校の拡充やJICAとの連携プログラムなど、学生を動かして国外研修に派遣する事業を積極的に推進する方向性は間違っていないと考える。  
 ○中島委員 A  
 国際交流が回復しつつある。  
 ○吉沢委員 A  
 postコロナ禍で、グローバル事業の成果が出てきている。

**【特記事項に関する委員意見】**

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0	5	0	0	5	100.0%	0.0%	
------------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

13	1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 No.34~35		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】	A6
										A	

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A  
理事長・学長分離型の執行体制に期待する。
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A  
「情報戦略推進会議」及び「情報戦略推進室」の設置は、学内情報のデジタル化と可視化によるIR機能の高度化につながるものとして期待している。
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A  
理事長・学長分離型の体制に期待する。

14	2 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No.36~37		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】	A6
										A	

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A  
インセンティブの働く人事制度の成果、課題があれば伺いたい。
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A  
「教職学協働によるDX推進」をテーマとした全学FD・SD研修の実施、事務職員の公立大学協会への派遣継続は評価できる。
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A  
男性の育児休業推進への取り組みとして、規定の見直しや改正がされているが、取りやすい風土への改善こそが必要と考える。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

15

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置  
No.38

	1			1	100.0%	0.0%	A
--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**  
 ○中沢委員  
 「教職学協働によるDX推進」をテーマとした全学FD・SD研修では、大学で実現できるDX推進や生成AIへの対応に関する議論がなされたものと推察する。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	4	0	0	4	100.0%	0.0%	
-------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

16

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.39~40

		2			2	100.0%	0.0%	A
--	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 基金事業については、今後に期待したい。
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

17

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.41

		1			1	100.0%	0.0%	A
--	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

18

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.42		1			1	100.0%	0.0%	A
------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

【特記事項に関する委員意見】

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	0	3	0	0	3	100.0%	0.0%	
---	---	---	---	---	---	--------	------	--

19

1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 No.43～44		2			2	100.0%	0.0%	A
---------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 次期認証評価機関による第三者評価受審(令和7年度受審)に向けて、粛々と準備を進めていただきたい。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 現時点で、自己点検・評価がしっかり行われている。看護学群が看護学教育機構の評価受審の準備を始めたということは評価できる。他の分野においても分野別質保証の観点からそれぞれ独自の評価をされることを希望する。



# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

20

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.45		1			1	100.0%	0.0%	A
----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**  
 ○中沢委員  
 書類上の言葉の問題であるが、次期認証評価機関による第三者評価受審(令和7年度受審)(P.59)と「令和3年度実績に関する自己点検・評価結果、これに関する第三者評価結果」(P.60)の第三者評価の区別がしにくい。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとすべき措置	0	4	0	0	4	100.0%	0.0%	
---------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

21

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.46		1			1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 6
-------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	-------------

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

22

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.47~48		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 6
----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	-------------

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 ランサムウェア等に対するメール系情報セキュリティに関するインシデントは増えており、啓発活動は重要である。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

23

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.49		1			1	100.0%	0.0%	A
-------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 大学で起こる可能性のある多種のハラスメント対応に関する体制整備は非常に重要である。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**

合計	3	45	1	0	49	98.0%	6.1%
----	---	----	---	---	----	-------	------

**【委員意見】(全体評価)**  
 ○伊藤委員  
 ・ 全体的に高い評価となり改善が進んだ成果と思える。昨年までの評価は厳しかったとも言えるかも。  
 ・ 公開講座や講師派遣など地域連携が計画を大きく上回っている。今後の成果に期待したい。  
 ・ 東北大学との差別化を意識しながら、高度な実学に基づき、地域社会に貢献できる人材を育て続けていただきたい。  
 ○中沢委員  
 県立大学としての立ち位置を考えると、宮城大学の使命の第一義は地域連携・地域貢献であり、地域活性化に対して実に献身的に貢献されていると思っています。大学教育の理念は人材育成にあることから、高度グローバル人材を育てていただきたいと考えます。  
 ○吉沢委員  
 これまでの取り組みがの成果が見えてきたものが多かった。新たな課題、取り組みも今後期待する。創立以来言われてきた留学生30%はなくなり、新たなグローバル事業が行われていることを評価するとともに、さらなる地方からのグローバルへの発展を期待したい。SDGs、DEI(Diversity, Equity, Inclusion)のキーワードを使った取り組みの表現をもう少ししてもよいのではないかと考える。